

長中だより



第4号（平成29年6月12日発行） 発行者 校長 小貫 崇明

【6月の生活目標】

- ・心身の健康に留意し、豊かな学校生活を過ごそう。
- ・時間を守り、効果的な活動をする。

○3団体・6個人が県中大会へ～中体連支部大会～

5月31日(水)～6月5日(月)に行われた中体連岩瀬支部総合大会では、野球、バスケットボール(男子)、卓球(女子)の3つの団体がそれぞれ準優勝を勝ち取り、県中大会への進出を決めました。また、卓球女子シングルスで4人、女子ダブルスで2組が見事県中大会の切符を獲得しました。県中大会に進めなかった選手も含め、長沼中学校の代表として立派な戦いをした選手の皆さん、本当にお疲れ様でした。また、応援に駆けつけていただきましたご家族の皆様、本当にありがとうございました。結果は以下のとおりです。

【野球】

- ・2回戦 対仁井田中 8-7 準決勝進出
- ・準決勝 対連合チーム 3-1 決勝進出
- ・決勝 対西袋中 2-3 準優勝（県中進出）

【ソフトテニス男子】

- ・団体戦 予選リーグ 対岩瀬中3-0 対須二中0-3 対大東中0-3 1勝2敗で惜敗
- ・個人戦 善戦するも、上位6ペアまでに入ることができませんでした。

【ソフトテニス女子】

- ・団体戦 予選リーグ 対仁井田中2-1 対須二中0-2 1勝1敗で決勝T進出
決勝トーナメント 対須一中 0-2で惜敗
- ・個人戦 善戦するも、上位6ペアまでに入ることができませんでした。

【バスケットボール男子】

- ・予選リーグ 須二中に敗戦するも須一中に60-42 2位で決勝Tへ
- ・決勝トーナメント 対鏡石中 50-37 決勝進出
対須二中 40-80 準優勝（県中進出）

【卓球】

- ・女子団体 予選リーグ 3勝0敗で1位通過し決勝Tへ
決勝トーナメント 対鏡石中 3-0 決勝進出
対須二中 0-3 準優勝（県中進出）
- ・男子個人 善戦するも、ベスト10に入ることができませんでした。
- ・女子個人 シングルス 佐藤由芽が3位、柳沼夢紬・佐藤有美がベスト8、小森山唯奈が敗者復活を果たし県中大会へ進出
ダブルス 佐藤美咲・佐藤美帆組が3位、五十嵐夏菜・石井綾花組が敗者復活を果たし県中大会へ進出

【バレーボール】

- ・女子予選リーグ 対大東中、対鏡石中、対須二中の3戦とも内容としては善戦したものの、0勝3敗で決勝トーナメントに進めませんでした。



○県中総合大会でも熱い応援をお願いします！

長沼中が出場する県中地区総合大会（6月14日～15日）の競技会場、初戦の相手等は以下の通りです。県大会出場を目指す選手達に熱い応援をよろしくお願いいたします。

【野球】 会場：郡山市・ヨーク開成山スタジアム

1回戦 14日(水) 9：30～ 対明健中 ※3位までが県大会出場

【バスケットボール】 会場：田村市総合体育館

1回戦 14日(水) 13：00～ 対郡山四中 ※3位までが県大会出場

【卓球】 会場：須賀川アリーナ

団体1回戦 14日(水) 9：15～団体戦開始 対高瀬中

10：00～ 団体戦の進行状況により、可能な個人戦を並行実施

※団体は3位まで、シングルスは8位まで、ダブルスは6位まで県大会出場

○長沼地区体育祭～光る中学生の活躍～

6月4日(日)に、長沼総合運動公園野球場において長沼地区体育祭が開催されました。各地区対抗の運動会として、今年で50回目を数える歴史ある行事です。そこで活躍するのは、ボランティアの中学生たちでした。各地区の代表として競技に出場することはもちろん、各競技の準備物の運搬、賞品の配付、進行のアナウンス等々、体育祭を支える裏方として、本当によく動いていました。かっこいいぞ！長中生！！



○熊に要注意！、そして不審者にも要注意！



6月1日(木)に、小中宇上台付近の道路を横切る体長80cm程度の熊が目撃されました。昨年度までの目撃情報とは違う場所で、生徒の自宅や学校により近い場所ですので、登下校時、また土日の部活動に行く際などにも注意するよう付近の生徒を集め指導しました。

さらに、6月5日(月)の午後4時頃、榊衝字宮本地内の長楽寺前で、小学校低学年の児童が黒い帽子をかぶった男に「お菓子をあげるからおいで」などと声をかけられる事件が発生しました。幸い実害はありませんでしたが、特に部活動の帰りに現場付近を通る中学生もいますので、駐在所等にもご協力をいただきながら注意していきたいと思っております。

★大切にしたい言葉(4) 「人は、人のために強くなれる」

ある大学の先生の話です。大学生たちだけで山登りをさせると、大学生たちは「しんどい」とか「もうやだ～」などと弱音を吐いてばかりだったそうです。しかし、障がいを持つ子どもたちと一緒に山に登ると、一生懸命に子どもたちをサポートし、弱音をまったく吐かなかったとか。私たち大人は守るべき家族がいるから、教師は教導すべき子どもたちがいるから、そして、地域社会は元気な子どもたちや若者たちがいるから強くなれるということでしょうか。